

## 国分寺市図書館運営協議会 第5期第5回定例会要点記録

日時：平成27年10月21日（水） 午前9時30分から11時30分

場所：本多公民館 音楽室

欠席 1人 傍聴：1人

会長：では協議事項から始める。業務委託の評価について、事務局から報告をお願いします。

課長：経過報告をする。9月に3回目の検証委員会があり、今回は2つ目の目的である仕様書の見直しについて協議した。次の委託をこのままの仕様でいいのか、改善する点はないのか、を各図書館固有の仕事—障害者サービスとか地域資料とか入れる、いまの手さばきの仕事のほか専門的な仕事も付け加えていけるのか等を討議した。また都立図書館の借用等一連の流れを分断している仕事を、きれいにしていくような仕様の見直しを図っていくため、いまは光図書館だけだが、恋ヶ窪図書館のいずみホールブックポストの扱いなど、手さばきのルーティーン仕事を基本にして、そこでしかない個別の仕事を仕様書の中に入れていく、このことを次回4回目の検証委員会に見直しとして提示して行こうと考えている。

会長：運営協議会は基本、業務委託には賛成できないというスタンスで来ていて、かなり慎重に評価していかなければならない。プラスの評価では、業務委託は職員削減や経費削減には決してつながらないという点を基本に押さえながら、業務委託する中で新たに何ができるようになったか、今まで出来なかったことがどう出来るようになったか、この点はあげていっていい。危惧するのは、業務委託が他の図書館に波及していくことによって、人員削減につながっていく、3人が2人に、2人が1人になってこの人数でもできるというふうになっていかないことを最低線に確保していきながら、新たなサービスをどのように作り出していけるかを考えることが必要だ。このへんが心配だとか何かあれば言ってください。

委員：もともとだと思う。が、ただ手さばきのものをどんどん業務委託するということは、そちらの目的は人数を減らすということなのだと思う。委託の目的は本当は何か、何が目標で委託をしたいのか、図書館は教育の専門的な機関であるとするのならば、こういう専門的な業務を委託するのであるならば今の業者選定は違うのではないか。逆にいえば、業務委託を推進しようという教育委員会や市長がなにを目的、目標に考えているのか聞いてみなければいけない。この点をはっきりしないと、いくら議論しても時間の無駄である。目的がはっきりしていて、それを実現するための業者が選定できて、そのうえでその業者の仕事が目標に向かってどうできているかを議論しないと面白くないと思う。

会長：教育委員会が目的を何に設定し、成果をどう求めているのかを皆の共通認識にしないで業者委託がズルズルと外に広がっていく、拡大の方向に流れていくのでは、本来の業務委託の目的が損なわれていくのではと思う。

委員：必ずしも人員削減がいけないとは思わない。図書館に運営の司令塔になるような専門職員を入れるために手さばきの仕事を委託するのはいいではないか、国分寺市の図書館をどうするのか、会長と市の上層部が目的を一つにしていかないとどうにもならない気がする。

会長：図書館長はよくやっている。

委員：いや、館長や現場はいいが、もっと上のほうが・・・。

会長：組織のトップに発想の切り替えをしていただかないと。

委員：結局、上層部と共通認識がないと図書館としてはつまらないのでは、現場が可愛そうだ。

課長：この業務委託はコスト削減とサービス拡大の両方が目的であり、委託のおかげで新しい専門的な事業が徐々にではあるができてきている。光図書館では固有の障害者サービスの仕事が進展しているし、先般行われた光公民館まつりでは共催で図書館も参加して事業ができたことは、少しずつではあるが変わってきている。今までは最低限のことしかやってこなかったが、もう少し進んだことが出来てきている。今まで図書館に来ていなかった市民の人びとへの働きかけ等、今後委託が4館に広がっていくことで、それぞれの館の特色や専門性を生かした新しい取り組みが生まれて行けばこういったことも委託が目指しているところだ。ベーシックな業務プラスアルファの取り組みを求めて委託を進めていくが、これがうまくいかない場合には、委託内容や仕様を見直していくことも必要だろう。

委員：先般の光公民館まつりでの光図書館のイベントに参加した。委託しての結果で生まれた余裕の成果という、初めて取り組まれた閉架書庫見学会とリサイクル本の配布。最近、図書館の民間委託のことでマスコミを賑わしていることがある。所謂「ツタヤ図書館」のことで、選書で公共図書館に相応しくない本が入っていたり、1冊1,000円程の本が100円で入れられていたり、といろいろ問題になっている。また、愛知県小牧市では指定管理者による図書館の民間委託計画が、その賛否を住民投票で問われ、反対が多数を占めて市はCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社）による計画を白紙撤回した。これは市民の声や意見が図書館の民間委託について、相当強くしっかりと上がってきていて、ツタヤ的図書館の見直しの流れが出てきている。全国的にも民間委託をやめて元の直営に戻すという動きが結構出てきているという。このように、いま検証するにあたって委託を、基本的に元の直営に戻すという選択肢もなきにしもあらずと言える。これはつまり市が直営とする公共図書館の運営の観点と、委託事業者のそれとは、基本的に異なるということ。事業者は利益、営業成績の追求が基本で、たとえそこに専門司書がいても利益追求が中心になり、市直営は市民への教育サービス、地域づくり、公共の福祉追求が中心になっている。おのずと根本的に大きく異なっている。公共図書館は、図書館法という法律に立脚し2000年に亘る面々とした歴史があつて、人類の情報を伝達、保存し

地域形成の大事な役割を担っている。このような背景に対して、止むを得ず今は民間委託になったとしても、企業の利益、営業中心が先行したら、ツタヤ図書館のように店子に母屋を取られてしまうような危機感がある。このような流れが広がっていくことにこのような危険性があることをきちっと警戒心を強めていかなければならない。先ほどの閉架書庫だが、これこそ資料の保存・伝達という図書館本来の役割の一つであって、町の書店や出版社はあまり力をいれないと思われる、外からは見えない固有の仕事である。

こういうところこそ、委託で余裕がでた力を振り向けていくことが大切だ。

副会長：検証委員会に会長と一緒に参加している。市民の立場からということを中心に意見を言っている。自分の事だが、9月中旬にある雑誌を探していた。1950年代の雑誌で、国会図書館や都立図書館や大学図書館にはなかった。次に杉並区の公共図書館に聞いたがないといわれた。そこでここ本多図書館に問い合わせたら、正しくレファレンスの仕事だが、丁寧に探してくれて遂に求めていた雑誌を手にすることができた。資料を探して提供することは、この様に図書館職員の専門的な固有の仕事といえる。これも国分寺市図書館の、歴史的に積み重ねられてきた結果・成果の一つだ。一部を民間委託ということになったが、図書館は市民の資料要求にどう応えていくか、またいかに資料保存をしていくか、専門職員の存在を前提に図っていくことが重要だ。とにかく求めていた資料を手にてきてなにより嬉しかったし、図書館があつて良かったと実感した。専門司書を大切に力量を継続していけるよう、委託化とは別に、専門職員採用の方法等で職員体制の充実にも留意して欲しい

委員：サービス拡大と経費削減を目指して委託化が始まった。開館時間の拡大等は目に見えるサービスの拡大でいいが、まず本当に経費削減になっているのか。普通の利用者には見えないところ。副会長が言ったようなちゃんとしたサービスの出来る職員がいることが大事なことと思う。専門の司書職員を採用していく等仕事をできる、また新しい職員を指導できる職員を育てていく、こういうことを切れ目なく継続していくことが大切だ。

会長：経費削減は数字で示せるか。

課長：光のみで570万円程削減できている。また、さらに全体の職員配置等からみれば、委託したことにより1,000万円弱程削減になっている。

会長：渡辺委員が言うように、いかに専門職員を育てていくかが大切な点である。委託することで職員に余裕が生まれてきて、資料を探すこともサービスであり、いままで出来なかったことが出来てきている等、専門性の高い仕事が出来てきている。開館時間拡大だけでなく、こういったこともサービス向上に繋がっていると思う。光の館長さんも委託一館目の初回という大事な場所にいることで、問題点をよく捉えて、どうしていったら良いかしっかり検討して欲しい。また、運営協議会のメン

バーも真剣に委託の動向を見守っていて強い味方がいると思って更にいろいろ新しいことに取り組んでいって欲しい。評価自体は流れに沿っていってしまうと思うが、図書館はそうではないところでしっかり足を踏ん張って頑張ってもらいたいということを協議会としてもお願いしたい。

では、次に「子ども読書活動推進計画」について、まず課長から説明を願いたい。

課長：資料は26年度実績と27年度どう進めていくかを表している、第二次計画ももう終盤に入っていて、第三次の視点を取り入れている。特徴を説明する。

事務局：「子ども読書活動推進計画」説明。

会長：26年度と27年度の対比と途中経過を見てもらった、何かあるか。

委員：読み聞かせで中級編とはどの程度の段階のことを指しているのか

事務局：何年か続けてやっていて、朝読書をしている人で、これでいいのか、とかもう少し深めたいと思っている人等を対象に考えている。

委員：職場で普段やっているが、私のような者でも受けていいのか。

事務局：もちろんいい。

委員：高校生向けのリストづくりに高校生も関わっているとあるが、どういう人達なのか。

事務局：並木図書館に職場体験で来た高校生に、作って見ないかと聞いて作っていった。

委員：高校生にアンケートをとったり、偏らない目で見てもらうにはもっと広範囲の高校生に聞いていくというのはどうか。並木図書館には近隣の高校生も利用に来ているので聞いてみたらどうか。

事務局：この4月に都立国分寺高校に新任の司書教員が来て、高校生と並木図書館とで連携ができないかと話し合いの場を持った。高校のイベントで夏休みのスタンプラリーに並木の本を団体貸出したり、都立図書館のブックトークに参加させてもらった。できればブックリスト作成に協力してもらえればと考えている。

課長：光のリサイクル市では国分寺高校生が本を並べるのを手伝ってくれたり、連携が始まっている。

会長：高校生レベルになると相当高い力を発揮できるので、むしろリスト作成を高校生に全面的にお任せする、もちろん若干の舵取りは図書館がするが、というのはどうか。これは後で触れる自主性を尊重した参加型の図書館ボランティアに繋がっていくのではないか。来館者としての高校生をどう捉えていくかも大切だ。委託で生まれてきた余裕の成果を、いまある環境をうまく使って更に新しい仕事をしていくことが大切だ。ブックリスト作成も学校司書の活用で、国分寺市は各校に1名いて100%の配置率があり、その人達との協同作業でやっていけばいいのでは。どこかの県では、学校司書が夏休みに公共図書館に行ってフロアワークとして来ている子どもに読書アドバイスをしている、公共図書館の職員ができないことを手伝えることで成果をあげていると聞いている。図書館スタンプラリーなども面白い発想ではないか。

委員：図書館福袋は小学校3、4年生向けとあるが、他の学年にはないのか。

事務局：25年度は幼児向け、26年度は1、2年生向け、来年28年度は5、6年生向けになる。袋の形ややり方等はまだ工夫したい。

委員：年に一回しかない。毎年全学年に配布するとかできないか。

事務局：その点も含めて検討していきたい。

会長：3番目、ボランティアについて協議する。課長から説明願いたい。

課長：資料5-2、要綱を審査に回しているところ。ボランティアは、貸出・返却の場面だけでなく、もっと大きく対象領域を考えていきたい。図書館に集う人達を結びつけたり、今まで図書館に来なかった人達に、定年になって地域に貢献したいと思っている人、もともと本好きの人達等々に広く呼び掛けていきたい。今まで行ったブックフェアや光公民館まつりのイベントでは、普段来ている人達とは違う人達が来てくれている、このようなこれから図書館に関わりたいと思っている人達を受け入れる入口、手段として、また図書館に賑わいを生んでいくきっかけとして図書館ボランティアを考えている。要綱が決まれば募集を始める。他市での取り組み状況を一覧表で示してある。一紹介、説明する一他市では既に様々に進んだ形で行われているが、国分寺市ではこれから第一歩ということで、12月から市報等で募集を開始する。担い手、協力員等いろいろと言葉があるが、とりあえず「図書館にボランティア」ということで始めたい。

会長：様々な事例があり、有償ボランティアと呼べるような活動もある。何かあるか。

委員：募集、広報活動が大変重要だ。市報に募集記事を出したというレベルではなく、細かく必要とするニーズ、メニューを洗い出し、このニーズにあてはまるボランティアがいるのか、事前に想定しておく。手を挙げる人がいそうな団体、グループに、例えば国際協会とか福祉協議会とかの市民のグループに事前に聞いて、こういうニーズがあるがお宅で対応できるかという調査をしたらどうか。パワーと浅く広報するだけでなく、焦点をつけた何か他の効果的な方法を考えたらどうか。

課長：ブックカフェをやったグループ・西国図書室や読み聞かせをしているグループ等ですでに打診をして進めている。

委員：公民館や地域センター等で活動している読書会等に何かできないかと聞いてみたらどうか。

課長：広く声をかけていきたい。シルバー人材センターとかにも。

委員：市民は知らないなので、こういう活動があるよと声をかける、食いついてくれるような活動を示してシルバー人材センター等に働きかければどうか。

会長：図書館には地域のコーディネーターをするという役割がある。ボランティアを通してグループと市民を結び付ける、そうすることで双方が活性化し、図書館の来館者も増加するという相乗効果も生む。

委員：全面的には賛成できないところがある。公的な場所で障害者が働ける場所を考えていくと、図書館が一番入りやすい。知的障害者の人達による書庫整理に、ボランテ

ィアが付いてもらえれば、もっと良くできていく。反面、現在行われている障害者による仕事としての公共施設での緑化推進の活動が、ボランティアになると障害者の仕事がなくなることになる。障害者雇用促進法という法律もあり、障害者の就労場所がなくならないよう配慮してほしい。

課長：議会からも申し入れがあり、その点には十分配慮していくつもりだ。

会長：その辺は当然のことなので、障害者の就労が維持できるような配慮は必要だ、障害者の方達が働きやすい環境をつくることもある意味でボランティアの役割であり、障害者の方達とボランティアが共存できる関係をつくっていくことが大切なことである。

委員：委託化の進展のなかでこれから図書館はどうなっていけばいいのか、心配だ。私の職場も実は指定管理者委託になった。委託化のいい所は見習っていけば良い、またボランティアさんにもいろいろなことを期待していいと思う。ボランティアを推進することは、その分職員に余裕を与え、職員が本来の仕事ができるなど職員を育てることに繋がっていく。ただ、みんな働きたい、働く場所を求めている人は多いので、ボランティア推進が、そういう場所と機会を奪ってってしまうということにならないように配慮してやって欲しい。

委員：若い人達、中学生、高校生のボランティアのクラブや大学生のそれへと具体的に参加を働きかけていくことはどうだろう。ボランティアの理念は、生涯学習であり、ボランティアすることで自分も成長する、また自主的・自発的な活動で地域づくり、仲間づくりに繋がるとされている。注意しないといけないことだが、活動が職員の仕事の代用みたいになってはならないということだ。つまり、安上がりの仕事の請負であってはならないということで、ボランティアの進んでいるアメリカの図書館でもこのことは明確に言っている。ボランティアのメニューには、今まで図書館の仕事としてやってきたものが入っているのが散見される。それが一部委託になったり、今度はボランティアの仕事みたいになっていっては、そもそもボランティアの活動の本来の趣旨・目的とは違ってきてしまう。ただ単にこれらのメニューがありますがやってみませんか、とかこれはボランティアさんにやっていただく、みたいになると、先程言ったようにボランティアは仕事ではないんだという根本が違ってきてしまうので、こういったことをしっかり押さえて推進して欲しい。

会長：こういったことは皆さんの共通認識として、このボランティアはあくまでも図書館の下請けではなく、むしろ市民の皆さんの自主性を尊重した自発的な活動であり、図書館の協力者としボランティアさんを受け入れていくというスタンスで進めて欲しい。

課長：十分に配慮して進めていきたい。

会長：では次に報告事項に入る。課長からどうぞ。

課長：光公民館まつりでの図書館の事業実績を事務局からする。

事務局：初めて光公民館まつりに図書館で参加した。10月17、18日にリサイクル市を2日間。閉架書庫見学ツアーを17日に午前午後各1回行った。10時に5人、3時に6人参加。1時間位。障害者サービスの関連資料他があり、いろいろ質問が出て、関心の高さが伺えた。リサイクル市は二小体育館の会場に1,610冊出した。3分の2程持って帰られた。子どもの本が少なかった。子ども家庭支援センターのスタンプラリーの通過点だったので、そのために来た人にも見に来てもらえて、普段図書館に来なかった人も来て、利用者の拡大になった。会場のパネルが半分空いていたので、来年はそこに図書館のPRをできればと思った。

委員：光だけがこういうことをしたのか。国分寺図書館は全て公民館との複合施設になっていて、この長所、強みで全館で共同まつりとして実施したらどうか。図書館をPRするいい機会になるが。

事務局：今まではカウンターを離れられなかったが、委託にしたために参加することができた。

委員：それは言い訳だろう。現状でも例えカウンターを手薄にしても、なんとかやりくりして共同参加したほうが良い。市民は理解してくれる。ある程度やるメリットはあると思う。

委員：本多公民館まつりで図書館の参加があったが、一度に全館は無理では。

課長：土日は特に職員配置が少ない。

委員：公民館側と話し合っ共同事業にしていく方向で働きかけたらどうか。公民館まつりのほうにもいい影響が出てくると思う。新しく来る人、ニューカマーを入れて事業拡大していけば、双方がより活性化する。

会長：貴重な意見。やるという方向で検討していくということではどうか。取掛かりを見つけて実行していけば、何か新しいものが生まれてくるのでは。

委員：まつりに大学生が来ていた。東経大が市内にあるが連携してなにかやっていくことがあってもいいではないか。

委員：東経大では地域連携事業というのをやっていると聞いている。

副会長：公民館まつりなどに取り組んでもらったらどうか。

委員：大人のボランティアと違って学生、若い人の活動にはいいものがある。市民まつりにも東経大生が参加している。

委員：大学のクラブ、サークルや先生方にもボランティアで地域の活動に参加している事例があると聞いている。大学でも地域連携に関しての窓口を用意し始めているところだ。

会長：他市でも大学生による地域連携事業が始まっているようだ。また国分寺市には研究所等が沢山あり、そのスタッフにも参加してもらったらどうか。外にある資源をいかに活用して図書館を盛り上げていくか、この点も大事だ。

課長：市内にはJR鉄道総研、日立、リオン他企業、研究所が多数あり、今後それらとの

連携事業について検討していきたい。

委員：国分寺は研究所の多いところで、ペンシルロケットに代表される宇宙研究発祥の地として有名になっている。この利点を生かして市は国分寺を宇宙、スペース、コスミックシティとして特徴づけていこうと力を入れている。今まさに宇宙がブームになっている中、図書館でも宇宙をテーマに特化した資料を専門的に収集し、特別コーナーや資料常設コーナー等を作りPRしたらどうか。市内の小中高校生をはじめ青少年に宇宙を啓発して、将来的に国分寺から宇宙に関してのノーベル賞をとる子も出てくるかも知れない。市は古代の国分寺でも有名だが、これは郷土資料の担当へ任せればいい。また、今期の協議会は特に諮問されていることはないということだが、このような提案、提言のようなことを、あと1年ある協議会の中で出してはどうか。できるかどうかはわからないが、すぐにでもできそうな提案、例えば私が前にも言ったことだが、全て予約の付いている資料は、早く回るように貸出期間を1週間に短縮するとか、いくつか出して行ってはどうか。

会長：諮問がなくても提案を出すことは可能なので、次回以降このことについて検討していてもいい。では、他に報告事項等あれば。

課長：市在住の昆虫博士のコレクションの展示会があった。教育7DAYSで三課連携の『国分寺の今昔』という資料の中の写真をパネルにしたものを、ふるさと文化財課との連携で各公民館図書館に展示した。

11月3日、市の表彰で並木図書館の開館の翌年からお話をしているグループの「おはなしのくにピッピ」が26年間の活動で表彰された。

議会定例会で西国分寺駅周辺エリアに貸出窓口ができないかと質問があった。都立多摩図書館にはできないが、返却ポストのあるいずみホールに設置できないか検討するとなった。

東経大からもらっている利用カードが、相互利用している市民にも利用できるようになった。

委員：写真展を見たが、どこを写しているものか説明が付いているとより解り良いと思うが。

課長：いまからできるかわからないが、意見があったことは伝えておく。

委員：光公民館まつりのリサイクル本で、戦後史の全集10冊位を持って行った人が喜んでいました。

副会長：読書の秋になった。ボランティア導入等大きな課題を検討した。まつりでの公民館との共催事業で、図書館PRのパネル展示をボランティア参加でやったらどうか。ボランティアの活動が外に見える形で行うことも大事なこと。地域を知ることのできる「まつり」になって欲しい。

次回は1月下旬頃 水、木を候補として予定する。

以上